

デイ便り

連日の猛暑日となり、夏本番となりました。
こまめな水分補給とエアコンなどを使用して部屋の温度調整
をおこない熱中症予防に心掛けて下さい。
七夕行事では、ゲームや手作りおやつなどをおこない楽しみ
ました。



令和 5年 8月 1日

第242号

ウエルガーデン伊興園

デイサービス発行

03-5691-9501

y-yamashita@welgarden.or.jp



welgarden

飲みかけのペットボトルは腹痛や食中毒のリスクも！細菌の増殖に要注意！

一度、口をつけたペットボトルは細菌が増殖し、時間が経つほど不衛生になってきます。簡単に説明しますと、



- ①人の口の中には、たくさんの細菌(口内細菌)がいる。
- ②ペットボトルに口をつけて「直飲み」すると、飲み口から細菌が入り込む。
- ③飲み物の水分・栄養を利用して細菌がペットボトル内で増殖をする。
- ④細菌が増殖をした飲み物を飲むと、腹痛・下痢などの体調不良や食中毒の原因となる。

最初のうちは、細菌が増殖していても見た目や匂い、味に変化はありません。そのため、多くの人は何の疑いもなく残りの飲み物を飲みます。後でお腹が痛くなっても、ペットボトルの飲み残しが原因だと考える人は少ないでしょう。

また、細菌は高温多湿を好むので、梅雨時期や夏場は特に細菌の数が増え、糖分が入った飲み物は糖分を栄養にしてさらに細菌が増殖します。

ペットボトル飲料を飲むときに最も重要なのは、早めに飲み切ることです。飲み切れない場合は冷蔵庫で保存するようにしましょう。常温保存より冷蔵保存のほうが細菌の増殖数が少なくなります。しかし、少なくなるというだけで細菌が増殖しないわけではないので、やはり早めに飲み切らなければいけません。また、細菌の増殖を防ぐにはペットボトルに口をつけず、コップに注いで飲むのも効果的です。

伊興園デイサービスにペットボトル飲料や水筒を持参される前に、相談員にご連絡をお願いいたします。



七夕

